



一般社団法人日本スーパーマーケット協会

平成28年11月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	55,108,512 万円	100.0%	103.9% (103.9%)	52,845,591 万円	102.2% (102.1%)
食 料 品	46,465,640 万円	84.3% (85.0%)	104.5% (104.6%)	44,818,316 万円	102.6% (102.5%)
農 産	7,175,514 万円	13.0% (13.7%)	115.2% (108.6%)	6,941,453 万円	113.0% (106.3%)
水 産	4,291,569 万円	7.8% (7.8%)	99.2% (101.7%)	4,132,839 万円	97.4% (99.6%)
畜 産	6,036,947 万円	10.9% (10.6%)	103.1% (103.0%)	5,791,748 万円	100.8% (100.5%)
惣 菜	5,252,449 万円	9.5% (9.8%)	104.8% (105.1%)	5,046,362 万円	102.4% (102.5%)
日配食品	10,392,573 万円	18.9% (19.2%)	103.6% (104.7%)	10,037,311 万円	101.8% (102.9%)
加工食品	13,316,588 万円	24.2% (23.9%)	102.4% (103.7%)	12,868,603 万円	100.7% (101.9%)
生活関連	3,577,973 万円	6.5% (6.3%)	101.1% (101.6%)	3,473,121 万円	100.6% (100.9%)
衣 料 品	1,839,089 万円	3.3% (3.1%)	101.4% (98.5%)	1,750,434 万円	102.4% (99.4%)
そ の 他	3,225,810 万円	5.9% (5.6%)	99.3% (99.8%)	2,803,720 万円	98.6% (99.4%)

② 数 値

全店総売上高	55,108,512 万円	店 舗 数	4,667 店舗
総売場面積	9,198,094.7 m ²	総従業員数	252,989 人

店舗平均月商	11,808.1 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,882.5 円 (100.8%)
月間m ² 売上(前月)	6.0 万円 (6.2 万円)	平均店舗面積	1,970.9 m ²
月間坪売上(前月)	19.8 万円 (20.4 万円)	パート比率(前月)	77.9% (77.7%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 11月の天候環境は、東・西日本では数日の周期で天気が変わり、寒暖の差が大きく、24日には関東・甲信地方の広い範囲で季節はずれの雪となった。平均気温は東・西日本は平年並み、沖縄・奄美は高かった一方、北日本ではかなり低く、特に上旬は記録的な低温となった
- ・ 昨年と比べて日曜日が1日少なく、売上へはマイナスの影響を与えた
- ・ 生鮮品の相場状況は、野菜が前月に引き続き高値で推移したほか、和牛は前年価格を上回る状況が続いている
- ・ 地域によって寒暖の差が大きかったことと、野菜の相場高騰が鍋物商材などの動きに影響を与えた

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は相場高の影響を受け、販売点数が減少したものの、単価上昇により売上を引き上げた
- ・ 野菜が高かったことから、価格が相場に左右されないカット野菜やもやしが好調であった
- ・ 果物は、糖度が高く食味が良かったみかんが好調であった一方、いちごや相場高だったりんごが不調であった

○ 水産

- ・ 刺身が好調とのコメントが多かった一方、鍋物商材は好不調が分かれる結果であった
- ・ 生するめいか、生秋鮭が不調であった。水揚げ量の減少や相場高など、販売環境が厳しい状況が続いている

○ 畜産

- ・ 牛肉は好調とのコメントが多かった。ステーキや切り落としが売上を伸ばした
- ・ 豚肉、鶏肉は不調であった。鍋需要の低迷により、豚肉のうす切り肉や鶏肉の切身などの動きが鈍かったことが要因
- ・ 加工肉は、WHOの研究機関による発がんリスクの発表から1年が経過し、一部に回復傾向がみられるものの、対前年の売上からの伸びは低い

○ 惣菜

- ・ 天ぷらやフライ、鶏の唐揚げなどの揚げ物が好調であった。カキフライの販売強化の事例が多く、大粒の展開やばら売りによる拡販で成功している
- ・ 前月に引き続き、野菜が高いことからサラダや和惣菜が好調であった

○ 日配・加工食品

- ・ 引き続き、ヨーグルトが好調となっている。インフルエンザ流行の兆しにより、更にニーズが高まっている
- ・ 加工食品は、米が好調であったほか、鍋つゆ、スープ、即席めんなどが気温の低下に伴い売上を伸ばしている
- ・ 野菜が高いことから、冷凍野菜、野菜飲料、漬物が好調であった一方、酒粕や麴などの漬物商材は大きく売上を落とした
- ・ ツナ缶の異物混入の影響により、魚缶詰が不調であった

「ボージョレ・ヌーボー、冬ギフト」の状況について

- ・ ボージョレ・ヌーボーは高単価の商品、ハーフサイズが好調であったが、売上ボリュームは減少傾向となっている。地域の国産ヌーボーなどが人気で購買のシフトもみられる
- ・ ボージョレ・ヌーボー解禁に合わせて、ローストビーフ、チーズ、インスタペーカーリーのバゲットなどの提案の事例があり、概ね好調であった
- ・ 冬ギフトは、果物、スイーツ、菓子ギフトなどの動向が良かったほか、昨年はWHO発表の影響を受けて低迷したハムギフトが回復傾向となっている

以 上